

熊本市 感染症発生動向調査 速報

現在の流行状況

RSウイルス感染症に注意しましょう！

RSウイルス感染症が増加しています。
 RSウイルス感染症は、冬季に流行する呼吸器感染症ですが、近年はこの時期から流行がみられます。
 生後1歳までに半数以上が、2歳までにすべての小児が感染すると言われています。特に、生後6ヶ月以内の乳児がRSウイルスに初めて感染した場合、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を起こすことがありますので生後6ヶ月以内の乳幼児は感染しないように注意しましょう。

【症状】

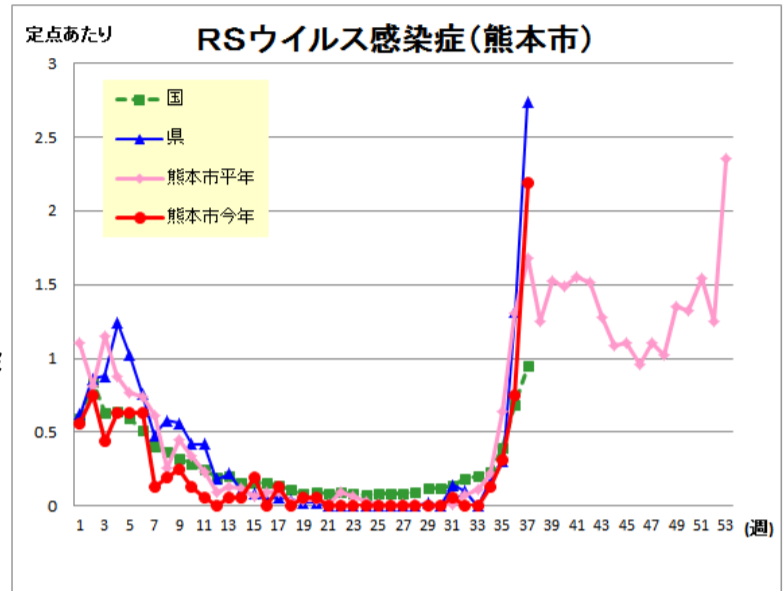
鼻水、咳、発熱などいわゆる「かぜ」のような症状がみられ、1～2週間で軽快します。多くは軽症で済みますが、初めてかかった場合、約3分の1に細気管支炎や肺炎などを起こします。また、一度感染しても再び感染します。

【感染経路】

- ・ウイルスは咳やくしゃみのしぶきからの飛沫感染
- ・感染した人との濃厚接触や手指やドアノブ等を介した接触感染

【予防方法】

- ・外出後の手洗いうがいの励行。
- ・流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない。
- ・症状のある人はマスクをする。



期 間		第36週		第37週	
		9/1～9/7		9/8～9/14	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	⬆	12	0.75	35	2.19
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	2	0.13	3	0.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⬆	9	0.56	18	1.13
感染性胃腸炎	➡	36	2.25	45	2.81
水痘(みずぼうそう)	⬆	18	1.13	6	0.38
手足口病	➡	25	1.56	21	1.31
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	11	0.69	15	0.94
百日咳	➡	0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ	➡	8	0.50	5	0.31
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	5	1.00	7	1.40
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	3	0.60
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	1	0.20